

# 学びのR

No. 2 (平成29年6月)  
 埼玉県教育局南部教育事務所  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform(改革)」の頭文字です

## \*\*\* 「思考ツール」で授業改善① \*\*\* ~思考の可視化で学びを深める~

可視化することのよさは…

- 思考が整理しやすくなる
- 多様な考えを共有できる
- 考えを比較したり、関係付けたりできる
- 学びの過程を振り返ることができる など



「どのような思考をさせたいのか」、「どのような目的の実現に向けて、その思考ツールを使うのか」明らかにしておくことが重要です。

思考ツールの活用は、授業の目的を実現するための1つの「手段」でしかありません。明確な意図をもって活用しましょう！

### 思考ツールを活用した授業実践事例 1 ピラミッドチャート

中学校 第2学年 社会

「東アジア世界との関わりと  
 社会の変動」

本時のねらい

足利義満の時代が安定していた理由を複数の資料からそれぞれ読み取り、関連付けて表現する。

思考ツール活用の意図

本時は「主体的、対話的で深い学び」の実現のため、「知識構成型ジグソー法」の手法を用いている。

エキスパート活動で各生徒が得た情報を可視化して整理するとともに、課題の答えをグループで話し合いながら練り上げることができるよう、ピラミッドチャートを活用する。

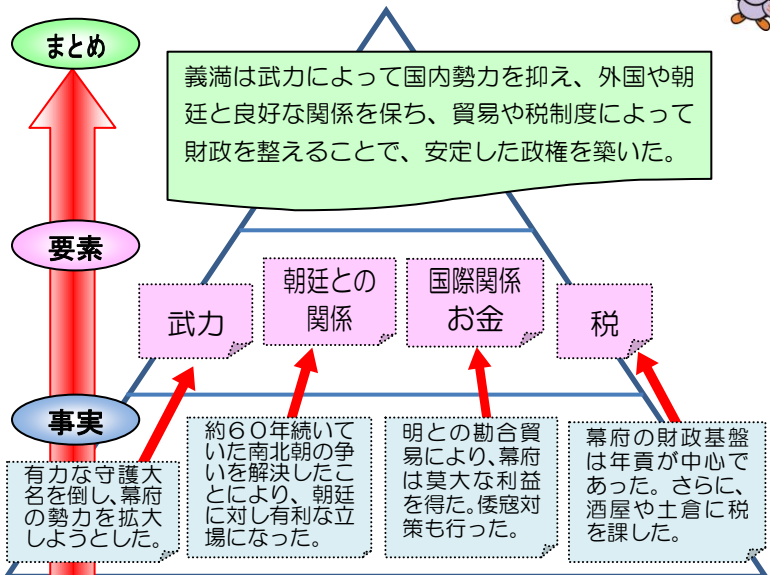
具体的な活用方法

「知識構成型ジグソー法」の手法を用いて授業を展開する。

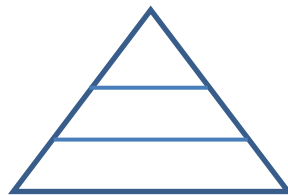
- ①各自がエキスパート活動で資料から読み取った「事実」(政策など)を付箋にまとめて下段に貼る。
- ②中段では、それぞれの事実から、政権を安定させるために必要な「要素」を短い言葉(ここでは『武力』、『税』、『国際関係』など)で表す。
- ③それらをもとに、義満の時代が安定していた理由について、グループで意見を交流しながら考えをまとめる。  
 ※②③はジグソー活動

思考ツール活用の成果

課題解決に向けた思考の流れの提示、「事実」と「要素」の可視化、情報の共有により、主体的・対話的な学びが促進された。また、グループや学級全体での対話を通して、一人一人の課題に対する考えにそれぞれの深まりが見られた。



(ピラミッドチャート)  
 焦点化・構造化



多様な情報や意見を1つにまとめたり、よりよい考えへと練り上げたりするときに有効。

個々の気付きやアイデア、考えの根拠となる情報を下段に、それらを取捨選択し中段に記入。より重要な内容を上段に絞り込む。



他教科等での活用のヒント

<理科>

具体的な情報や事実から、上位の概念に向けて推論を進めたり、学習内容をまとめたりする上で役に立つ。

上段 本時の学習課題のまとめ  
 単元全体のまとめ

↑ ↑  
 中段 情報・事実を結び付けて  
 考えられる考察

↑ ↑ ↑ ↑  
 下段 実験や観察から得られた  
 情報・事実  
 (結果や気づいたこと)

## 話し合いの手立て

### I 知識構成型ジグソー法



「知識構成型ジグソー法」は、「話す」、「聞く」、「考える」といった、一連の活動を繰り返し、考え方や学び方そのものを学習活動の中で学べる「協調学習」のための方法の一つである。授業の展開としては、まず、生徒は課題を受け取り、**自分自身で答えを考えること**からスタートする。

生徒は、今現在の知識や経験を生かして、与えられた課題に対する答えをまとめる。その後、課題を解決するためのヒントとなる数種類の教材を用いて、グループでの話し合い活動を行う。このグループ活動には、同じ教材を読み合う**エキスパート活動**、違う教材を持ち寄り話し合う**ジグソー活動**の2種類がある。

エキスパート活動では、与えられた教材（ヒント）をグループ内で意見交換しながら、その教材に書かれている内容や意味について理解を深める。この活動をとおして、生徒は教材に関する専門家（エキスパート）になる。次に、違う教材を学んだ生徒で新しいグループをつくり、エキスパート活動で知り得た知識を組み合わせ、初めに与えられた課題の答えを求めていく。異なる知識一つ一つがピースとしてつながり、知識が融合されることで、与えられた課題の答えにたどり着く。まさにジグソーパズルを行っているような活動といえる。

その後、グループで話し合われた内容や導き出された答えなどは、グループ相互の意見交換（**クロストーク**）を通して情報共有を行う。

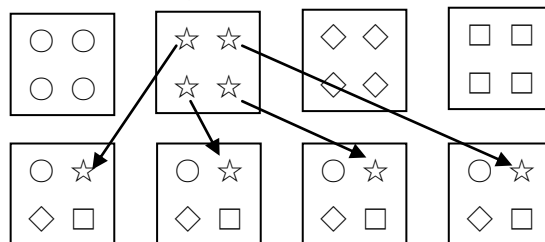
グループ活動後は、その活動を通して広げ深めた考えを基に、与えられた課題に再び向き合い、**最後は一人で課題に対する答えをまとめていく**。

【埼玉県教育委員会 HP「学びの改革」（「協調学習」を引き起こす「知識構成型ジグソー法」による授業イメージ）より】

①課題を受け取り、個人で答えを考える

②エキスパート活動

同じ教材について話し合い、理解を深める



③ジグソー活動

②で学んだことを教え合い、課題に対する答えを導き出す

④クロストーク

全体で意見交換を行う

⑤個人で課題に対する答えをまとめる

### \* 授業力向上ミニ講座 \* 「三観」と「逆算設計」

学習指導案の冒頭に、教材観（単元観・題材観）、児童（生徒）観、指導観のいわゆる「三観」を記述します。これらは授業をデザインする基本的な要素となるばかりでなく、授業力を向上する上で重要な視点となります。

教材観（単元観・題材観）は、「**学習指導要領、同解説**」の内容を踏まえることが基本です。「教科書を教える」のではなく、「教科書で教える」内容（身に付けさせたい力）を明確にします。特に、単元を通して、体験活動や話し合い活動を計画していくことが重要です。また、小・中連携の観点から、学習（内容・方法）の系統を踏まえることは、学力向上の点からも有効となります。

児童（生徒）観は、教師の日頃からの児童・生徒理解が大切です。また、客観的に児童の実態をとらえることも重要であり、諸調査やアンケート等の結果を踏まえることも多く実践されています。

児童・生徒の実態を十分に考慮せずに、教えるべき内容＝教材観に偏って授業を進めると、一問一答式のような講義式の「**学習あって活動なし**」の授業になってしまいます。また、反対に育てるべき力を明確にしておかないと活動が目的化してしまい、「**活動あって学びなし**」となってしまいます。

指導観は、「教えるべき内容（身に付けさせたい力）＝教材観」と「育てるべき児童・生徒の実態＝児童・生徒観」をどのように結び付けていくのか、授業をデザインする上で、ポイントとなることです。この授業では、どのようなアプローチ（導入、展開、資料、発問・指示、教材教具・その提示方法の工夫、ICTの活用、振り返り等）を通して、どうねらいに迫るということを明確にする大変重要なことです。話し合い活動等を計画する時も、このような流れの中で、どのような方法が適切なのかを考えていくことが必要です。

授業力の向上のもう一つの要素が、授業のゴールを明確にして遡（さかのぼ）るように授業を設計していくこと（逆算設計）です。ゴールとは、その授業を通して児童・生徒に身に付けさせたい力です。目標準拠という言葉がありますが、目標（ねらい）＝評価（ゴール）です。授業に活動を取り入れても、活動自体が目的ではありません。つけたい力を明確にして、そのゴールに迫るためにふさわしい活動を考えていくことが大切です。思考ツールの活用もそれ自体が目的ではありません。目標＝指導＝評価となるよう授業力向上にチャレンジしてみましよう。

『学びのRシリーズ』では、今後、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善のための資料（「思考ツールで授業改善」）と教職員の授業研究会を改善するための資料（「ワークショップ型研修で授業改善」）を順次提供していきます。多くの学校・先生方に活用していただける資料づくりを目指します。（授業実践例を募集することも予定しています）

「学びのR」No.1はこちら！

